

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告

平成3年度

八千代市教育委員会

本文・図版目次

本文目次

例言

第1章 調査に至る経過	3
第2章 各遺跡の概要	4
第1節 萱田町川崎山遺跡の概要	4
第2節 原内遺跡の概要	7

調査組織表

挿図・図版目次

第1図 市内全域図	2
第2図 位置図	4
第3図 グリッド配置図	5
第4図 土層断面図	5
第5図 遺物実測図	6
第6図 位置図	7
第7図 グリッド配置図	8
第8図 遺物実測図	9
第9図 土層断面図	9
図版1 萱田町川崎山遺跡	10
図版2 原内遺跡	11
図版3 萱田町川崎山遺跡・原内遺跡	12

例 言

1. 本報告書は、市内発掘調査事業として、萱田町字川崎山730—1に所在する萱田町川崎山遺跡、島田台字原内1105外に所在する原内遺跡について報告した。
2. 本事業は、平成3年度国庫及び県費補助事業として発掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、平成3年11月1日～平成3年12月20日に亘って、整理作業は平成4年2月3日～同年2月19日にかけて行なった。
4. 発掘調査及び報告書作成は、森が行なった。
5. 本書の執筆、掲載写真の撮影は、森が行なった。



第1図 市内全域図

1:50,000 佐倉

(S = 1:50,000 国土地理院発行を転載加筆)

第1章 調査に至る経過（第1図）

萱田町川崎山遺跡は、平成3年8月末に長岡俊博氏より文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会された。これを受けて市教育委員会では現地踏査を行なった。現況は山林であったが隣接する都市計画道路敷設の際の発掘調査（注1）において遺構が検出されており、この点を考慮して遺跡が所在する旨、長岡氏に回答した。その後協議を行なったが、計画変更がむずかしいとのことから確認調査を実施することとなった。県文化課にこの旨を打診し、今年度の国庫補助対象事業として調査できるか確認をとって調査準備に入った。調査は器材の搬入を含めて平成3年11月1日～同年11月12日に亘って実施した。（遺跡番号№241）

原内遺跡は、平成3年5月学校法人秀明八千代学園理事長竹林保次氏より文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会があった。市教委では現地踏査を行なったが、山林を伐採、伐根した現況において須恵器、土師器片が散見している旨、県文化課に副申した。県文化課立ち会いによる現地踏査において試掘後の状況によって回答することから、同年8月試掘を行なった。その結果2ヶ所において遺構を確認したので、この旨県文化課に報告し、県の回答をまって、事業者に遺跡が所在する旨回答した。その後協議により計画変更がむずかしい点及び盛り土による工事を行うということで、確認調査のみ実施することになった。県文化課には国庫補助対象事業として確認調査を実施できるか確認をとって調査準備に入った。調査準備を含め平成3年11月14日～12月20日に亘って調査を実施した。（遺跡番号№32）

なお、萱田町川崎山遺跡は、照会面積2,401.61㎡、対象面積1,350㎡、確認調査面積140㎡であり、原内遺跡は、照会面積20,900.80㎡、確認調査面積2,040㎡である。

注：八千代市遺跡調査会・八千代市「萱田町川崎山遺跡発掘調査報告」1979

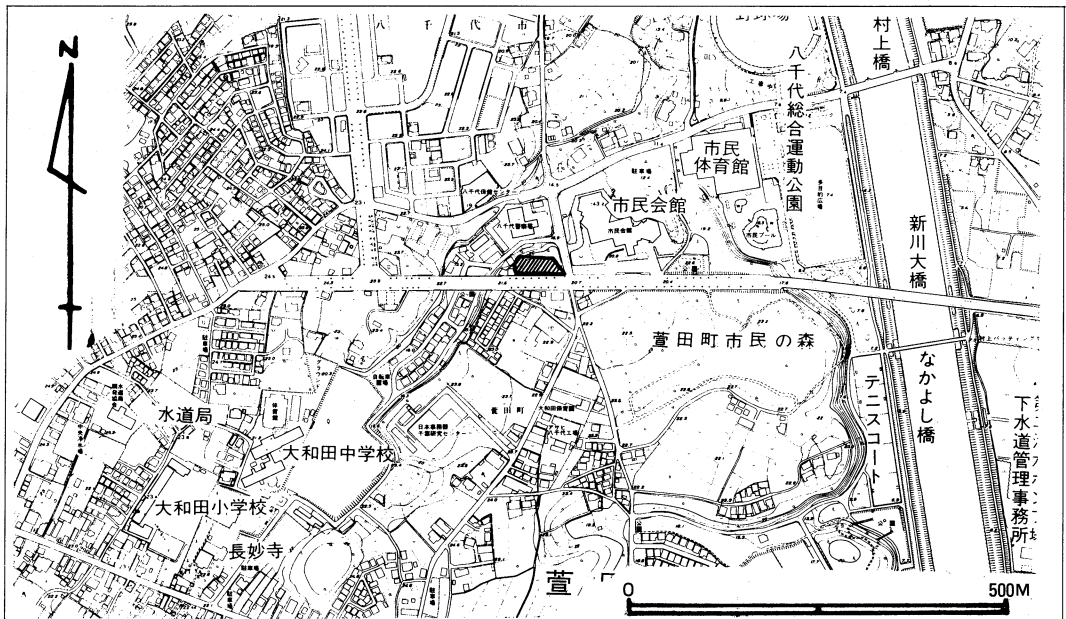
第2章 各遺跡の概要

第1節 萱田町川崎山遺跡の概要（第1～5図、図版1・3）

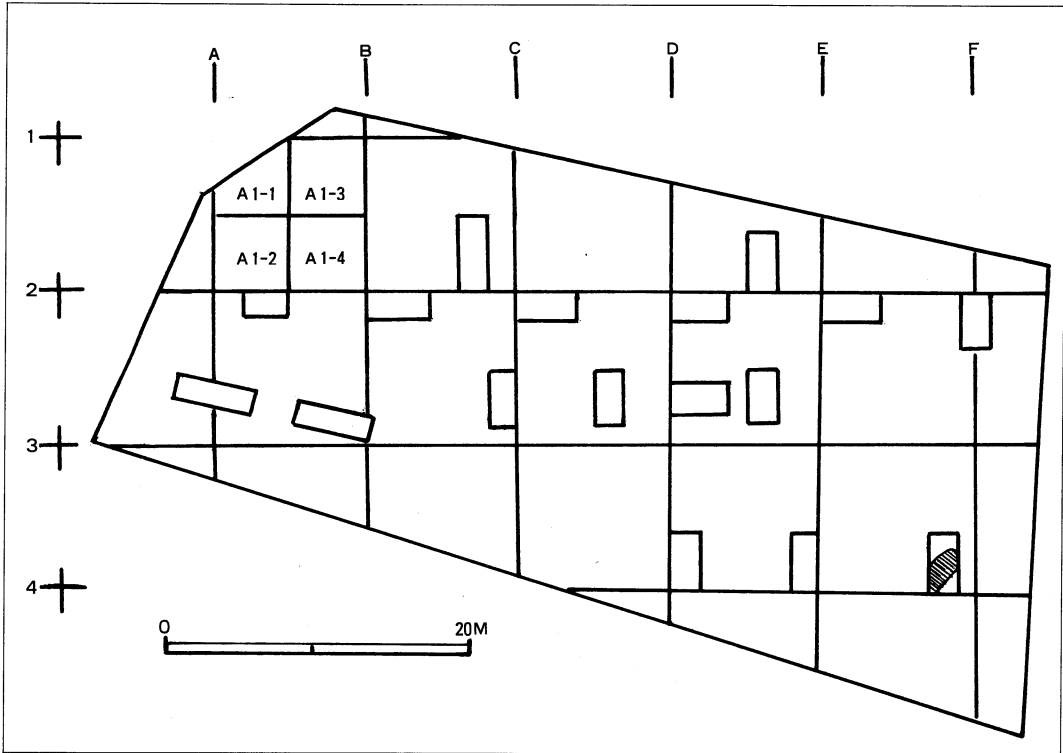
遺跡の立地 本遺跡は、新川西岸に至る谷を望む台地縁辺部に位置する。標高約20～22mで、水田面との比高差は、16mを測る。

調査の方法と経過 調査方法は、任意の方眼を設定し、2×4mを基本としてトレンチの掘り下げを行なった。経過は、平成3年11月1日器材搬入、11月5日～11日に亘ってトレンチ掘り下げ、セクション実測を行い、12日器材撤収をもって調査を終了した。

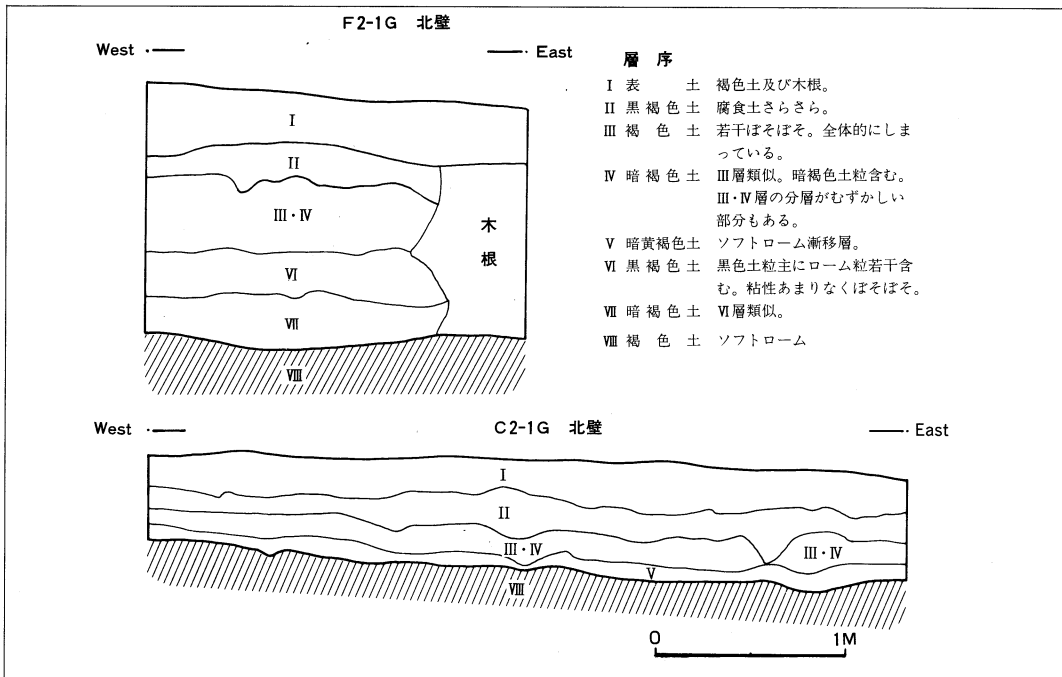
調査の概要 遺構は、E3-4区において縄文時代のピットを確認した。掘り込みは、Ⅲ・Ⅳ層下層あるいはⅥ層中と考えられる。遺物は、縄文時代早期～後期に亘って出土している。出土層位は、E2-1・3区及びE3-4区においては、Ⅲ・Ⅳ層下部～Ⅵ層上部で、その他については、Ⅲ・Ⅵ層中である。以下出土遺物について若干説明を加える。Iは早期貝殻条痕文系、2～6は、前期黒浜式、7・8・10～12は、中期下小野式、9・13～15は、中期五領ヶ台式、16・17は、中期阿玉台式、18は後期加曾利B式、19は中期阿玉台式の底部、20は下小野式の底部である。その他にチャートの剥片が4点出土している。基本層序は、図示してあるように、谷部を形成したと考えられる層序と台地平面部を形成した土層について掲げた。



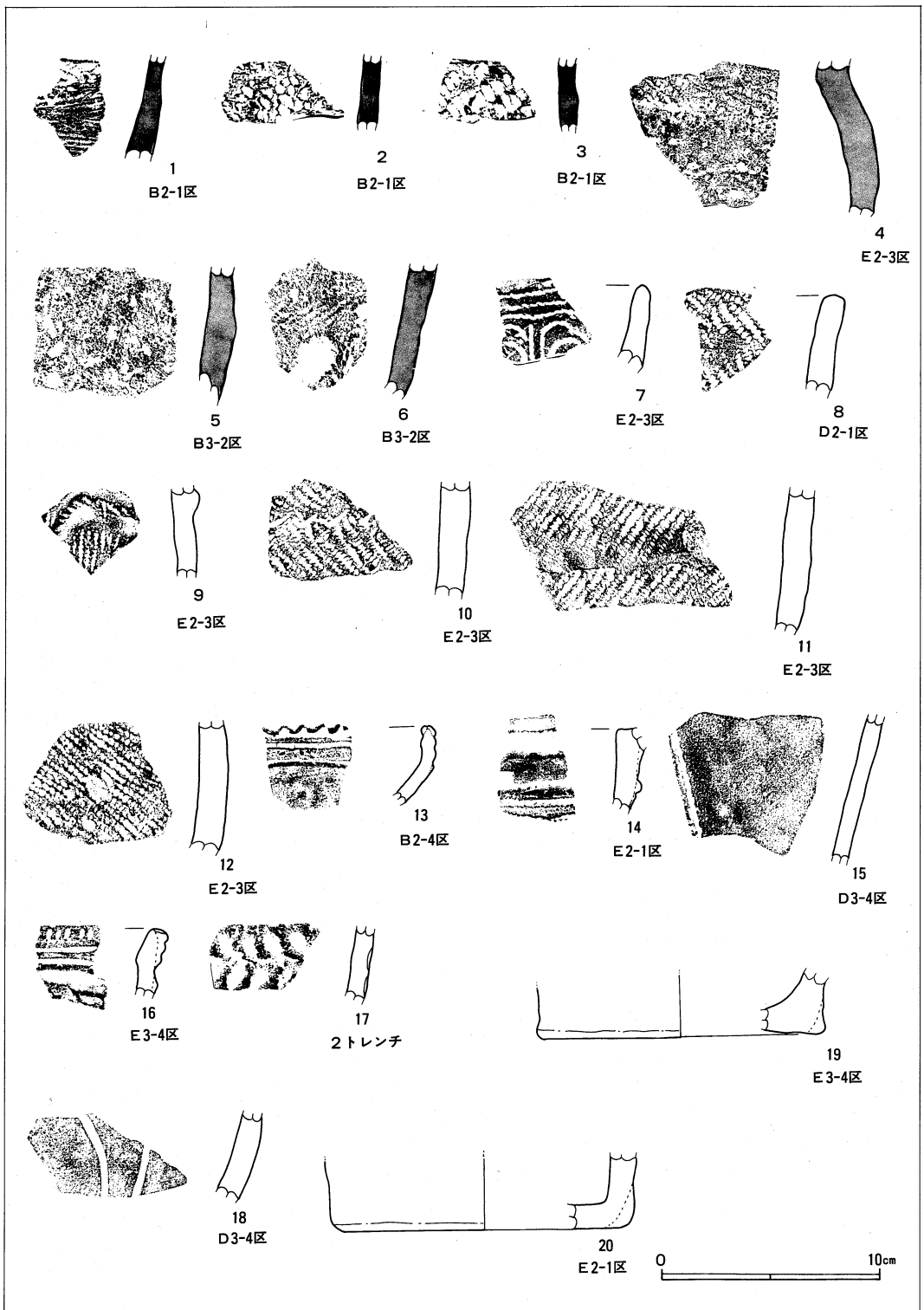
第2図 位置図（八千代都市計画基本図）



第3図 グリッド配置図



第4図 土層断面図



第5図 遺物実測図(S = 1/3)

第2節 原内遺跡の概要（第1・6～9図、図版2・3）

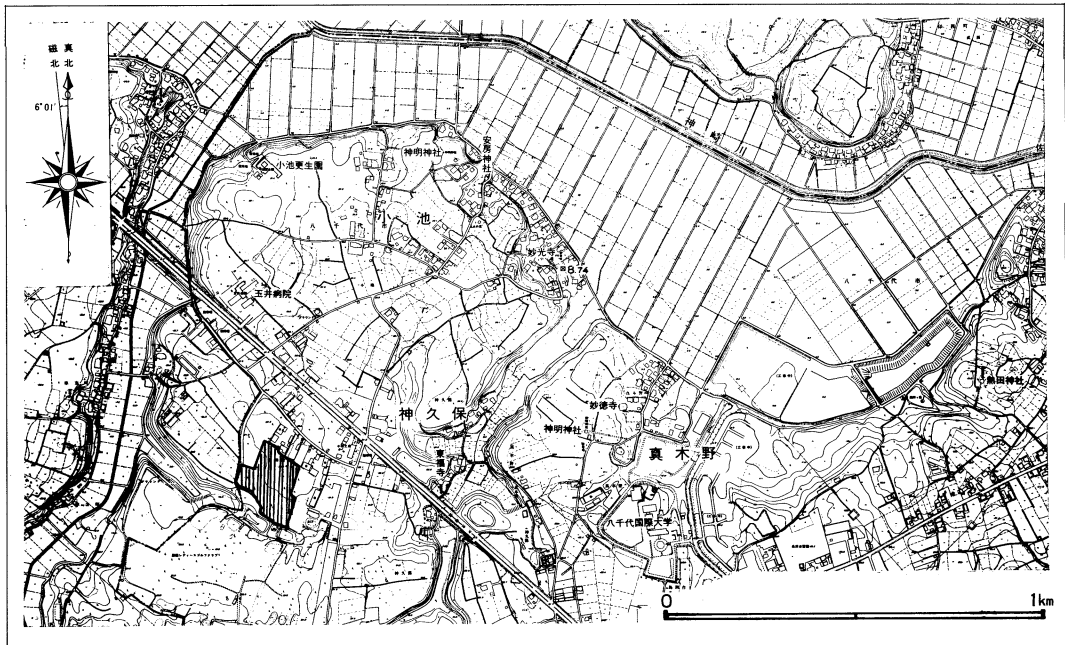
遺跡の立地 当遺跡は神崎川から南へ入り込む谷を西に眺む、台地上平坦部（標高22～23m）に立地する。水田面との比高は、14～15mを測る。

調査の方法と経過 調査区の設定は公共座標系を用い、20m方眼を一区とし、更に5m方眼を小グリッドとして設定した。調査は小グリッドに2×4mのトレンチを基本として、遺構確認面迄（Ⅲ層）掘り下げた。

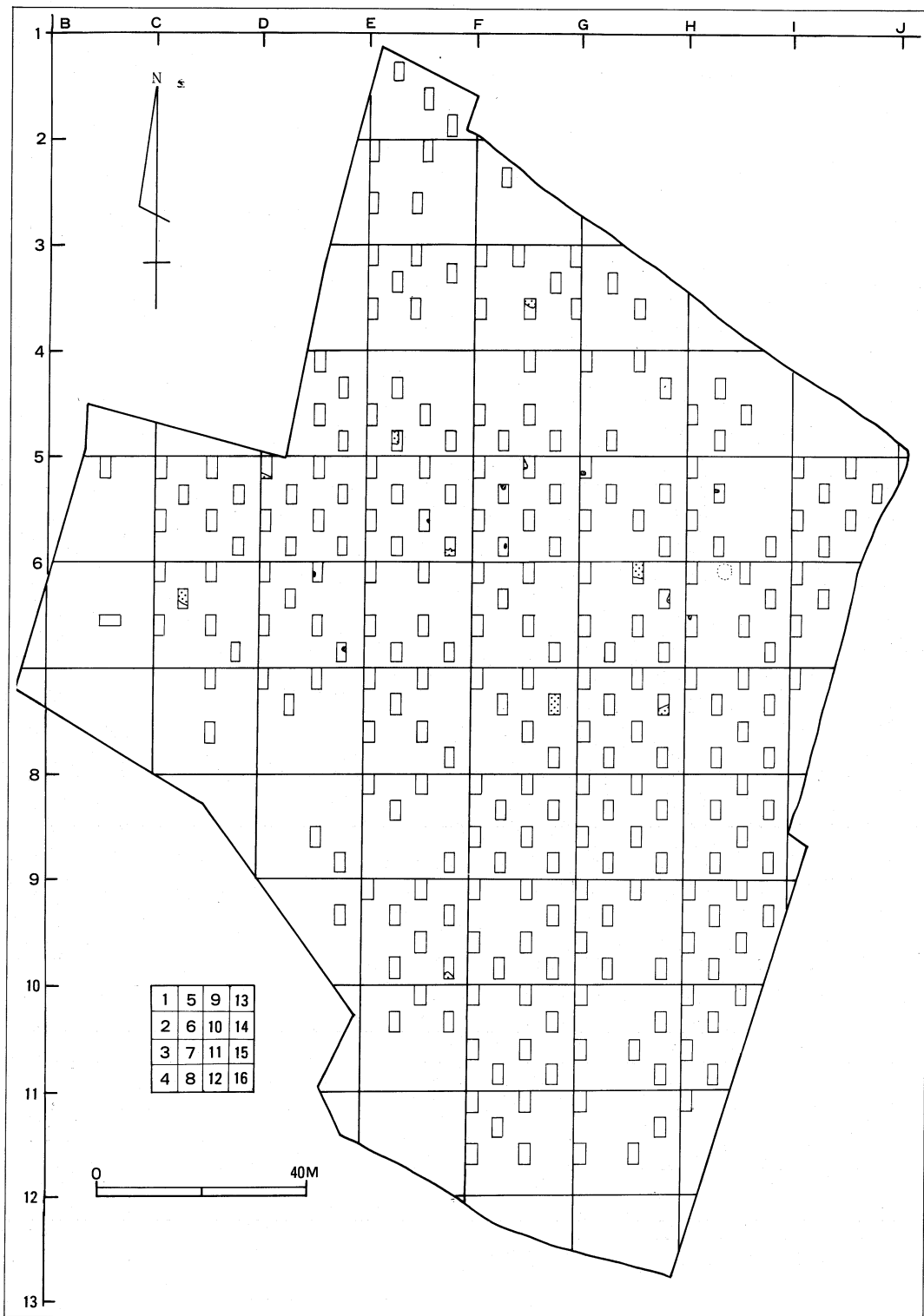
該地は重機による伐根・整地後であったため、表土除去は機械力に依り、遺構検出作業に力をおいた。なお、調査は平成3年11月14日～12月20日にかけて、実施した。

調査の概要 確認された遺構は、堅穴住居址11軒（弥生時代後期乃至古墳時代前期2、平安時代5、時期不明4）、土壙8基（平安時代1）、土器集中地点1ヶ所であった。

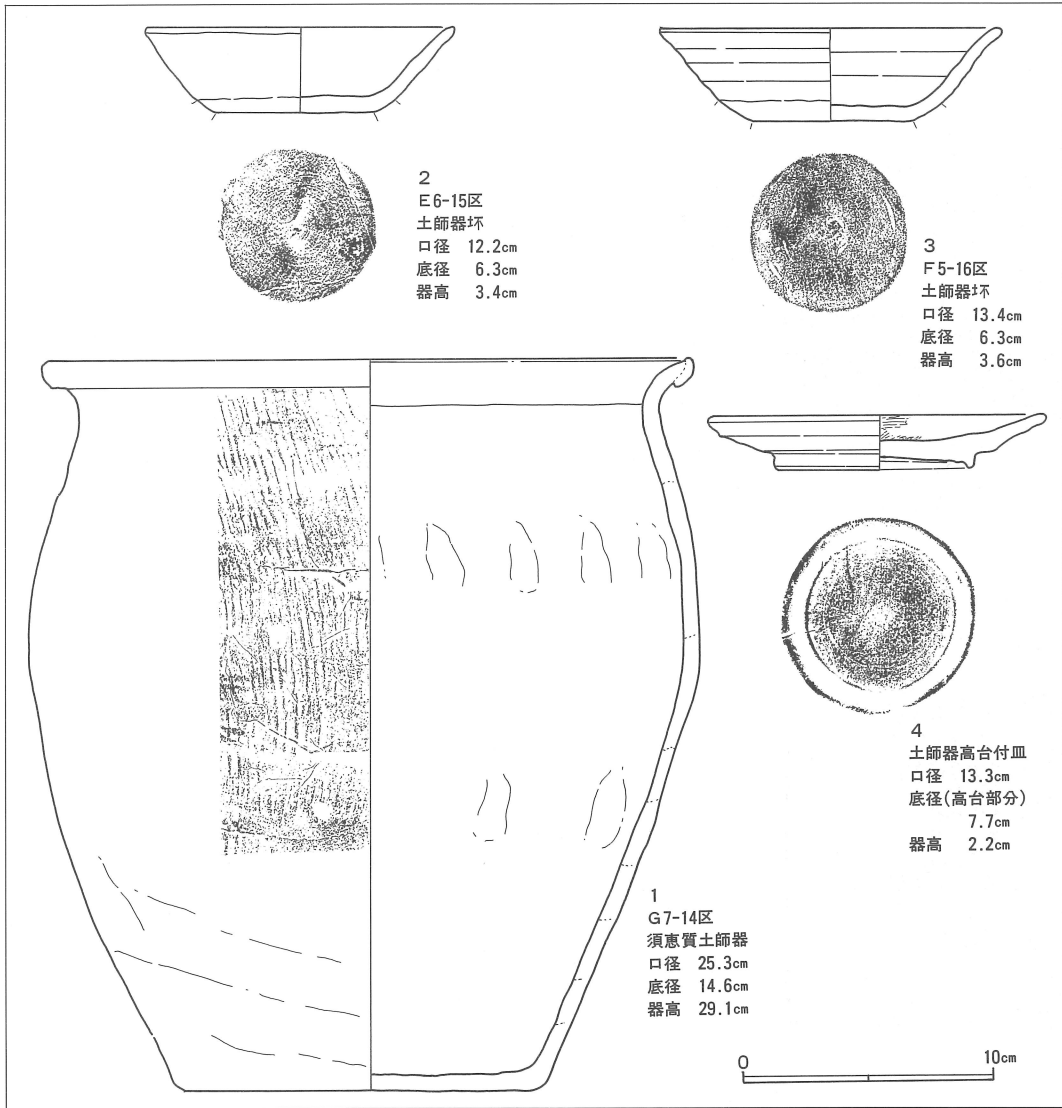
堅穴住居址はサブトレンチを設定、試掘したが、弥生～古墳時代60cm、平安時代40～60cmの壁高を測った。土器集中地点については、表土下10～30cmの検出であり、出土範囲（第7図点線部分・H6-5）は径3m程である。遺物は須恵質土器の甕・甑を主体とし、極めて量的に多い。小破片が主体だが、甑8個体以上、甕20個体以上となる。坏は殆んどない。遺物取り上げ後、精査したが、焼土や灰また遺物に係る遺構等は確認されなかった。土器は2次焼成されたものが多いことも指摘しておく。



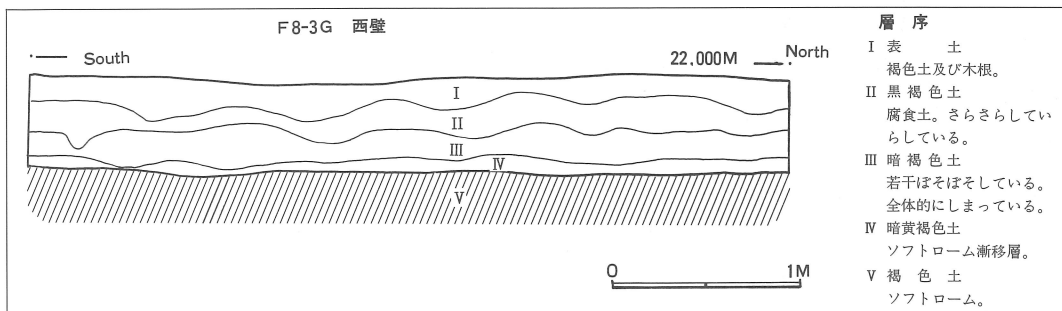
第6図 位置図（八千代都市計画基本図）



第7図 グリッド配置図



第8図 遺物実測図(S = 1/3)



第9図 土層断面図

図版1 萱田町川崎山遺跡



調査風景



E2-3区 セクション

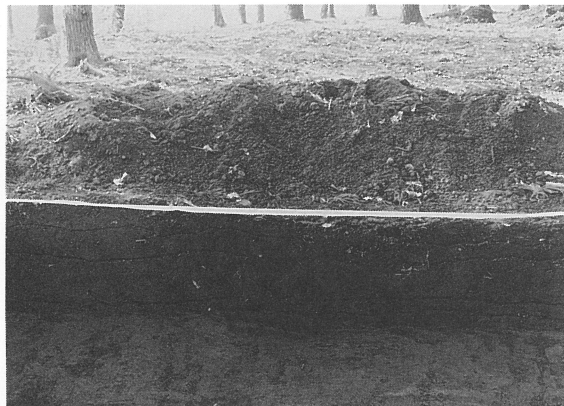


遺構確認状況

図版2 原内遺跡



遺跡近景（西から）



F 8-3 セクション



遺構確認状況（E 5-16区）



遺構確認状況（C 6-6区拡張後）

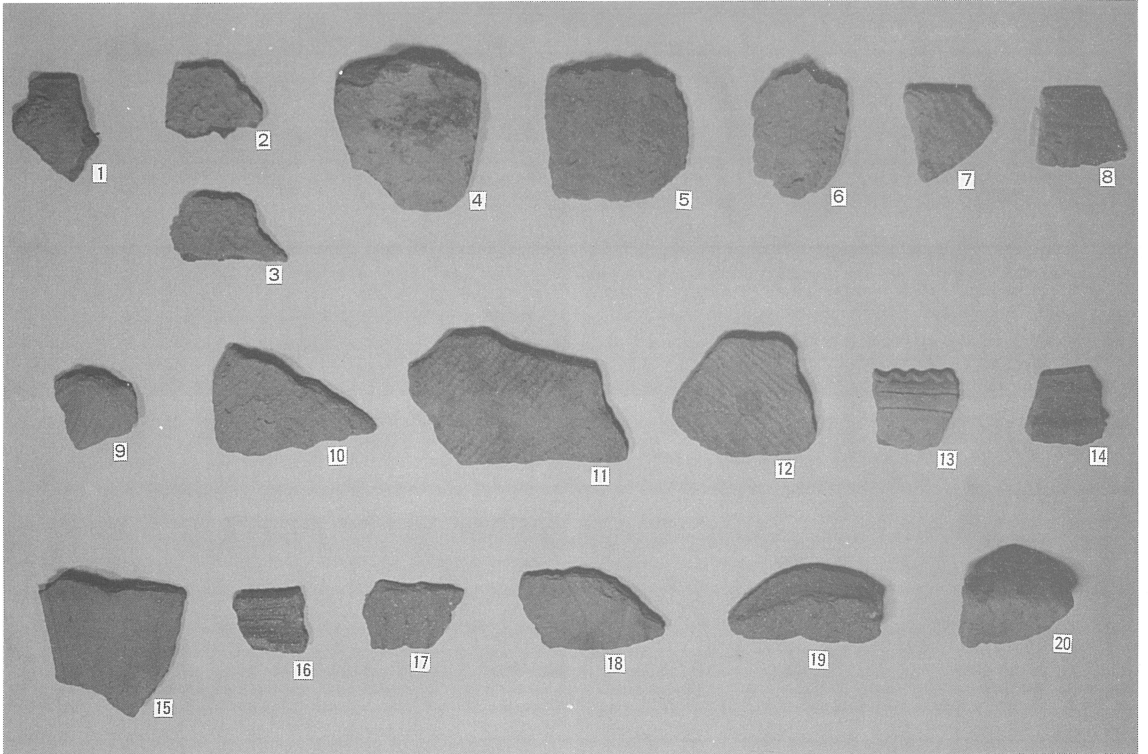


遺構確認状況（G 5-1区）

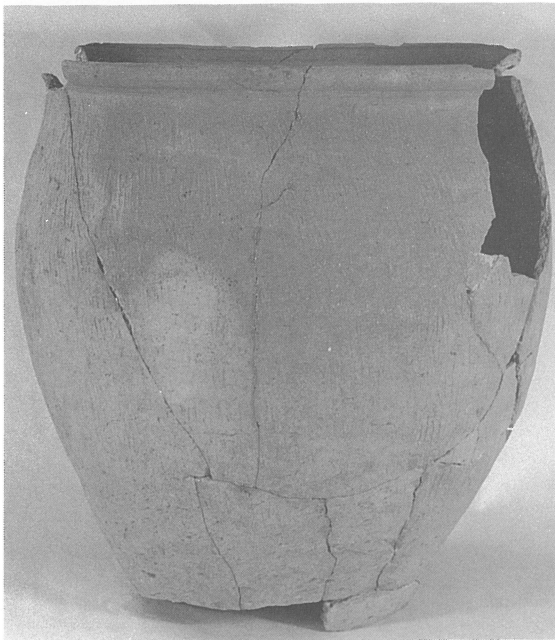


遺構確認状況（G 6-9区）

図版3 萱田町川崎山遺跡・原内遺跡



萱田町川崎山遺跡出土遺物



原内遺跡出土遺物

調査主体者 大熊章一（八千代市教育委員会教育長）

事務局 鈴木重男（八千代市教育委員会生涯学習部長 平成3年11月1日から）

伊藤勇毅（八千代市教育委員会社会教育課長 平成3年10月31日まで）

今井利久（ ” ” 課長 平成3年11月1日から）

鈴木賢治（ ” ” 課長補佐 平成3年11月1日から）

綱島幹夫（ ” ” 文化係長）

木原善和（ ” ” 副主査）

小平浩子（ ” ” 主事）

調査担当者 森 竜哉（ ” ” 主事）

作業員 長岡宣雄・長岡かつ・花島あやめ・花島のぶ・周郷ち似子・渡辺虎男・斉藤節子・

宮腰和子・富澤雅子・大谷千鶴・寺島稲子・遠藤啓子

整理員 斉藤節子・宮腰和子・富澤雅子・大谷千鶴・寺島稲子・遠藤啓子

**千葉県 八千代市
市内遺跡発掘調査報告**

印刷日 1992年3月25日

発行日 1992年3月31日

発行 八千代市教育委員会

印刷 (有) 八千代印刷